

目次

1. 工作機械統計・産業動向

- ◆米国工作機械受注統計(12月) 1
- ◆米国工作機械受注統計(地域別) 2
- ◆台湾工作機械輸出入統計(2009年1~10月) ... 2
- ◆米国工作機械貿易統計(12月) 3
- ◆韓国工作機械主要統計
(切削型・2009年11月) 3

2. 主要国・地域経済動向

- ◆米国：製造業設備稼働率は若干増加
(12月) 5
- ◆米国：AMT、B11規格制定活動を見直しへ... 5
- ◆米国：製造業部門、6ヵ月連続で成長
(1月) 5
- ◆欧州：EU主要国製造業景気動向指数(D.I.)
と資本財生産月次推移(1月) 6
- ◆ドイツ：METAV2010は業界の景気回復の
目安に、出展社数が再び増加 6
- ◆独機械業界、10年はゼロ成長の見通し 7
- ◆独機械業界が模造品防止の取り組み強化 7
- ◆独企業景況感、10ヵ月連続で改善 8
- ◆伊工作機械業界、受注減続く 8

3. 工作機械関連企業動向

- ◆スイス工作機械メーカー StarragHeckert、
09年受注高43.5%減 8
- ◆独工作機械のギルデマイスター、09年は
94%減益に 8
- ◆スイス：Mikron社の2009年決算は大幅
減収 9
- ◆米国：Hurco社の2009年度決算は減収減益 ... 9
- ◆英国：The 600 Group、当年度中間決算を
発表 9

4. その他

- ◆ユーザー関連トピックス 10

5. 日工会外需状況(1月) 14

1. 工作機械統計・産業動向

◆米国工作機械受注統計(12月)

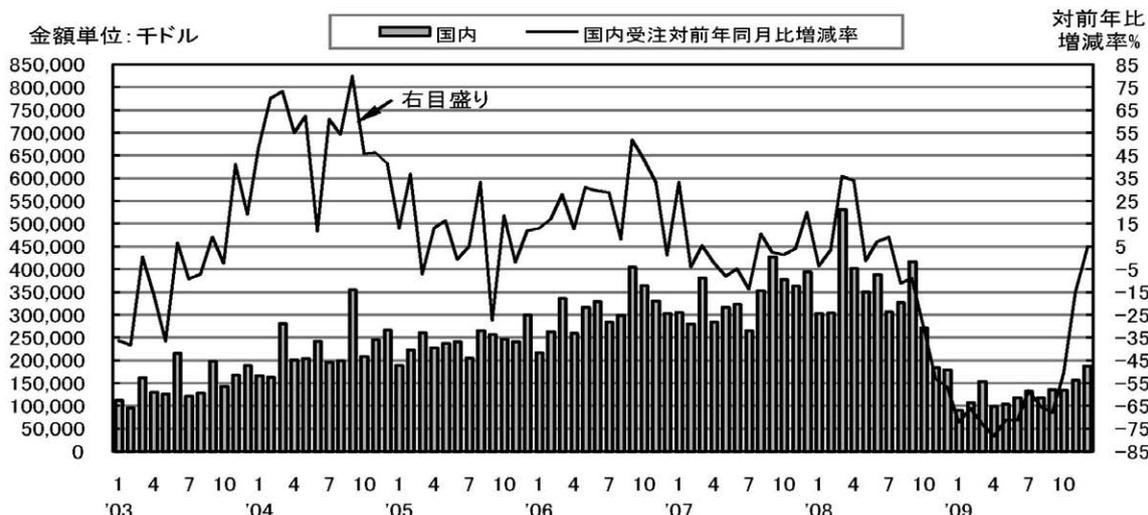
AMT(米国製造技術工業協会)及びAMTDA(米国工作機械販売協会)発表の受注統計(USMTC)によると、2009年12月の米国切削型工作機械受注は、1億8,758万ドルで前月比19.6%増、前年同月比4.6%増となった。

AMTのWoods専務理事は「11月、12月の受注増は2009年末の投資促進税制の期限切れによるものである。AMTと40の産業グループは、減価償却と第179条の経費項目の復活を要請する書状を国会と大統領に送った。外国税の構造は、資本設備投資を促し、米国製造業が雇用を生み出し、経済を動かす革新的な原動力となるのであれば、政府はこの競争力に報いる必要がある。」と述べた。

米国工作機械(切削型)受注統計
(金額単位：千ドル)

年 月	受 注	
	台 数	金 額
2007年累計	25,029	4,149,935
2008年1月	1,747	303,694
2月	1,906	304,867
3月	2,829	531,324
4月	2,002	402,602
5月	1,974	350,175
6月	2,271	388,963
7月	1,732	307,358
8月	1,933	326,698
9月	2,460	416,646
10月	1,691	271,241
11月	1,263	184,472
12月	1,391	179,314
2008年累計	23,199	3,967,354
2009年1月	694	91,390
2月	780	107,769
3月	963	153,364
4月	855	99,162
5月	814	103,608
6月	853	117,771
7月	907	131,996
8月	806	117,583
9月	920	136,133
10月	993	134,932
11月	957	156,807
12月	1,232	187,578
2009年累計	10,774	1,538,093

工作機械受注の月次推移(米国)



(USMTCレポート 2月8日付)

◆米国工作機械受注統計(地域別)

(単位:百万ドル)

地域別	2009年12月(P)	2009年11月	前月比(%)	前年同月	前年同月比(%)	2009年累計(P)	2008年累計(R)	前年同期比(%)	
全米	切削型	187.58	156.81	19.6	179.31	4.6	1,537.09	3,969.32	-61.3
	成形型	32.02	21.81	46.8	53.62	-40.3	233.82	500.54	-53.3
	計	219.60	178.62	22.9	232.93	-5.7	1,771.91	4,469.86	-60.4
北東部	切削型	39.77	30.37	31.0	42.47	-6.3	306.25	605.00	-49.4
	成形型	4.15	2.95	40.9	9.46	-56.1	39.39	71.18	-44.7
	計	43.92	33.32	31.8	51.92	-15.4	345.65	676.18	-48.9
南部	切削型	23.49	23.14	1.5	28.08	-16.4	211.42	567.92	-62.8
	成形型	6.00	4.34	38.2	7.96	-24.6	34.03	105.68	-67.8
	計	29.49	27.48	7.3	36.04	-18.2	245.45	673.60	-63.6
中西部	切削型	50.71	44.83	13.1	42.46	19.4	434.67	1,342.88	-67.6
	成形型	11.51	4.11	180.1	12.09	-4.8	71.49	120.83	-40.8
	計	62.22	48.94	27.1	54.55	14.1	506.16	1,463.71	-65.4
中部	切削型	48.47	41.58	16.6	41.50	16.8	380.44	966.95	-60.7
	成形型	6.27	7.88	-20.4	15.02	-58.2	53.86	162.61	-66.9
	計	54.74	49.46	10.7	56.52	-3.1	434.30	1,129.56	-61.6
西部	切削型	25.14	16.89	48.8	24.81	1.3	205.31	486.57	-57.8
	成形型	4.09	2.53	61.3	9.09	-55.0	35.04	40.23	-12.9
	計	29.22	19.43	50.4	33.90	-13.8	240.36	526.80	-54.4

P:暫定値 R:改定値
四捨五入により合計値及び%は一致しない場合がある。
出所:USMTC

◆台湾工作機械輸出入統計(2009年1~10月)

台湾工作機械機種別輸出入統計(2009年1~10月)

(単位:千USドル)

機種名	輸出			輸入		
	2009.1-10	2008.1-10	前年比(%)	2009.1-10	2008.1-10	前年比(%)
放電加工機	60,027	137,326	-56.3	80,374	1,046,064	-92.3
マシニングセンタ	371,624	1,054,385	-64.8	21,469	46,108	-53.4
旋盤	326,028	735,590	-55.7	31,555	71,674	-56.0
ボール盤・フライス盤・中ぐり盤	164,281	317,833	-48.3	15,184	37,064	-59.0
研削盤	69,522	166,646	-58.3	48,031	83,014	-42.1
歯切り盤・歯車機械	79,345	162,236	-51.1	25,807	32,746	-21.2
切削型合計	1,070,827	2,574,016	-58.4	222,420	1,316,670	-83.1

出所:海関進出口統計月報

台湾工作機械国別輸出入統計(2009年1～10月)

(単位：千USドル)

輸 出					輸 入				
順位	国 別	2009.1-10	2008.1-10	前年比(%)	順位	国 別	2009.1-10	2008.1-10	前年比(%)
1	中国・香港	526,204	966,061	-45.5	1	日 本	132,358	852,692	-84.5
2	米 国	107,863	285,160	-62.2	2	ド イ ツ	40,201	78,734	-48.9
3	ド イ ツ	64,640	188,214	-65.7	3	中国・香港	19,535	34,554	-43.5
4	タ イ	55,575	94,460	-41.2	4	イ タ リ ア	17,358	12,373	40.3
5	ブラジル	47,787	137,923	-65.4	5	ス イ ス	15,746	28,507	-44.8
6	イ ン ド	45,856	102,583	-55.3	6	米 国	15,384	287,196	-94.6
7	ベトナム	41,047	76,803	-46.6	7	韓 国	13,782	29,163	-52.7
	そ の 他	516,851	1,379,755	-62.5		そ の 他	22,750	77,343	-70.6
	合 計	1,405,823	3,230,959	-56.5		合 計	277,114	1,400,562	-80.2

出所：海関進出口統計月報

◆米国工作機械貿易統計(12月)

- 2009年12月の米国工作機械輸出額(切削型)は、前月比13.3%増の109.3百万ドルであった。

2009年1～12月の輸出累計は、前年同期比36.5%減で、1,099.7百万ドルであった。

- 2009年12月の米国工作機械輸入額(切削型)は、前月比42.0%増で167.8百万ドルであった。

2009年1～12月の輸入累計は、前年同期比53.5%減で、1,901.0百万ドルであった。

		2009年 12月	2009年 11月	12月/11月 増減率 (%)	2009年 1-12月	2008年 1-12月	前年比 増減率 (%)
切削型	輸 出	109.3	96.5	13.3	1099.7	1,733.1	(36.5)
	輸 入	167.8	118.2	42.0	1,901.0	4,085.2	(53.5)
	収 支	(58.5)	(21.7)	169.1	(801.3)	(2,352.1)	(65.9)
成型型	輸 出	58.3	48.5	20.1	597.1	747.3	(20.1)
	輸 入	45.4	47.2	(3.9)	562.2	1039.3	(45.9)
	収 支	12.9	1.3	872.8	34.8	(292.0)	(111.9)
合 計	輸 出	167.6	145.0	15.6	1696.7	2,480.4	(31.6)
	輸 入	213.2	165.4	28.9	2,463.2	5,124.5	(51.9)
	収 支	(45.6)	(20.4)	123.4	(766.5)	(2,644.1)	(71.0)
NC機	輸 出	57.0	59.2	(3.8)	667.0	1135.1	(41.2)
	輸 入	132.2	104.9	26.0	1616.6	3,609.1	(55.2)
	収 支	(75.2)	(45.7)	64.5	(949.6)	(2,474.0)	(61.6)

(注) ()はマイナスを表す。四捨五入により、合計値と一致しない場合がある。

出所：AMT - The Association for Manufacturing Technology

(AMT Report 2010年2月12日付)

◆韓国工作機械主要統計(切削型・2009年11月)

年	受注(単位:億ウォン)		生産(単位:億ウォン)		輸出(単位:百万ドル)		輸入(単位:百万ドル)	
	金 額	前年比						
2006	20,912	14.8	18,801	23.9	1,221	41.2	2,334	27.1
2007	21,660	3.6	20,346	8.2	1,375	12.6	1,037	-55.6
2008	23,787	9.8	21,581	6.1	1,405	2.2	1,037	0.0
08.4Q	4,845	-17.5	4,943	-13.2	317	-17.7	162	-42.3
09.1Q	3,623	-37.0	3,846	-21.4	234	-28.7	183	-33.7
2Q	3,616	-47.4	3,796	-31.6	197	-48.7	183	-41.5
3Q	3,884	-38.5	2,972	-52.0	186	-50.4	203	-29.0
2008.10	1,850	-4.4	1,719	-1.3	116	-4.9	76	-15.6
11	1,548	-31.7	1,696	-16.2	94	-28.8	57	-40.0
12	1,447	-13.5	1,528	-20.8	107	-18.3	29	-24.0
2009.1	1,255	-33.7	1,390	-3.1	76	-24.0	61	-46.0
2	1,160	-35.5	1,128	-27.1	81	-22.1	40	-44.4
3	1,208	-41.4	1,328	-30.6	77	-37.9	82	-9.9
4	1,282	-44.8	1,314	-28.9	80	-38.9	56	-54.5
5	1,081	-51.7	1,074	-37.5	54	-58.1	55	-31.3
6	1,253	-45.9	1,408	-29.0	63	-49.2	72	-34.5
7	1,000	-58.2	968	-54.2	62	-56.9	69	-42.5
8	1,038	-40.4	857	-57.4	55	-51.8	62	-29.5
9	1,846	-15.2	1,147	-44.6	69	-41.5	72	-7.7
10	1,951	5.5	1,193	-30.6	50	-56.9	62	-18.4
11	1,518	-1.9	1,715	1.1	111	18.1	81	42.1

出所：受注&生産 韓国工作機械工業協会/輸出入 韓国通関統計

韓国工作機械業種別受注(2009年1～11月)

(単位：百万ウォン)

	2009.10	2009.11	前月比(%)	2008.1-11	2009.1-11	前年比(%)
鉄鋼・非鉄金属	11,072	11,465	3.5	42,719	58,386	36.7
金属製品	15,991	12,140	-24.1	131,569	92,618	-29.6
一般機械	23,724	14,077	-40.7	255,746	181,146	-29.2
電気機械	18,834	20,995	11.5	93,848	110,747	18.0
自動車	61,682	32,559	-47.2	341,169	274,317	-19.6
造船・輸送用機械	5,968	2,707	-54.6	167,922	146,074	-13.0
精密機械	5,026	4,872	-3.1	79,566	54,622	-31.4
その他製造業	5,599	6,921	23.6	46,277	46,966	1.5
官公需・学校	375	555	48	3,829	5,512	44.0
商社・代理店	2,110	2,752	30.4	16,576	18,608	12.3
その他需要部門	195	141	-27.7	15,689	1,435	-90.9
内需	150,576	109,184	-27.5	1,194,910	990,431	-17.1
外需	79,361	68,608	-13.5	1,365,530	693,136	-49.2
受注累計	229,937	177,792	-22.7	2,560,440	1,683,567	-34.2

出所：韓国工作機械工業協会

韓国工作機械機種別受注(2009年1～11月)

(単位：百万ウォン)

	2009.10	2009.11	前月比(%)	2008.1-11	2009.1-11	前年比(%)
NC旋盤	76,534	74,892	-2.1	1,078,669	641,809	-40.5
NCフライス盤	2,082	577	-72.3	53,632	16,887	-68.5
マシニングセンタ	67,288	49,576	-26.3	699,867	471,501	-32.6
NC放電加工機	960	2,217	130.9	5,969	5,978	0.2
小計	183,648	141,800	-22.8	2,036,771	1,335,250	-34.4
旋盤	1,762	1,841	4.5	33,064	17,472	-47.2
フライス盤	1,536	2,054	33.7	33,837	26,941	-20.4
ボール盤	618	692	12.0	11,266	6,125	-45.6
研削盤	4,639	4,661	0.5	37,749	28,523	-24.4
専用機	-	-	-	2,668	381	-85.7
小計	11,446	9,968	-12.9	197,313	121,923	-38.2
金属切削形計	195,094	151,768	-22.2	2,234,084	1,457,173	-34.8

出所：韓国工作機械工業協会

韓国工作機械機種別生産(2009年1～11月)

(単位：百万ウォン)

	2009.10	2009.11	前月比(%)	2008.1-11	2009.1-11	前年比(%)
NC旋盤	48,546	67,867	39.8	968,325	592,937	-38.8
NCフライス盤	1,941	12,580	548.1	65,048	52,278	-19.6
マシニングセンタ	34,443	44,070	28.0	625,164	401,658	-35.8
NC放電加工機	1,660	940	-43.4	5,507	7,672	39.3
NC中ぐり盤	16,478	8,737	-47.0	51,725	60,308	16.6
NC合計	112,303	159,443	42.0	1,883,281	1,292,192	-31.4
旋盤	1,388	2,349	69.2	35,050	19,413	-44.6
フライス盤	1,516	2,076	36.9	39,578	17,598	-55.5
ボール盤	38	147	287	2,336	1,501	-35.7
研削盤	2,032	1,307	-35.7	16,339	10,984	-32.8
専用機	160.0	857.0	435.6	7,672	6,741	-12.1
非NC合計	6,982	12,044	72.5	122,046	72,285	-40.8
金属切削型合計	119,285	171,487	43.8	2,005,327	1,364,477	-32.0

出所：韓国工作機械工業協会

韓国工作機械機種別出荷(2009年1～11月)

(単位：百万ウォン)

	2009.10	2009.11	前月比(%)	2008.1-11	2009.1-11	前年比(%)
NC旋盤	53,178	73,773	38.7	974,877	627,906	-35.6
NCフライス盤	2,130	12,524	488	25,449	52,377	105.8
マシニングセンタ	33,333	34,712	4.1	650,858	399,317	-38.6
NC放電加工機	1,015	570	-43.8	5,861	3,747	-36.1
NC中ぐり盤	4,898	8,315	69.8	50,165	47,807	-4.7
NC合計	105,409	158,114	50.0	1,874,028	1,315,986	-29.8
旋盤	2,195	2,929	33.4	41,281	23,818	-42.3
フライス盤	1,731	2,242	29.5	43,564	21,411	-50.9
ボール盤	168	151	-10	2,190	1,531	-30.1
研削盤	2,011	1,434	-28.7	20,521	13,068	-36.3
専用機	495	393	-20.6	6,500	6,117	-5.9
非NC合計	8,333	12,736	52.8	155,317	78,400	-49.5
金属切削型合計	113,742	170,850	50.2	2,029,345	1,394,386	-31.3

出所：韓国工作機械工業協会 *データは全て原文通り

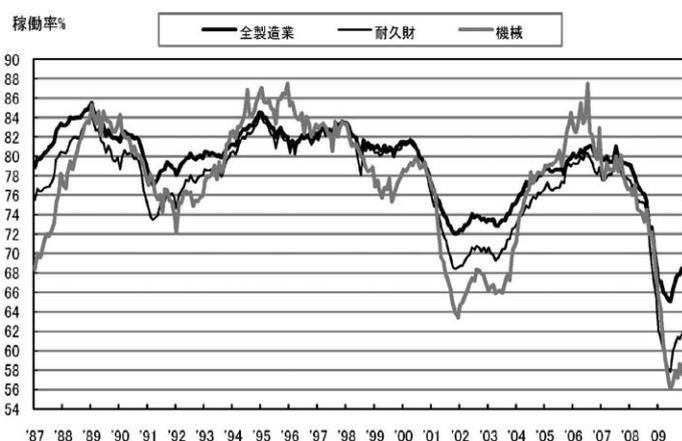
2. 主要国・地域経済動向

◆米国：製造業設備稼働率は若干増加(12月)

12月の設備稼働率(速報値)は、全製造業で68.6%、耐久財製造業で61.8%、機械製造業で59.1%となった。

前月比で見ると、全製造業と耐久財製造業では0.1ポイント、機械製造業では1.5ポイント夫々増加している。一方、前年同月比で見ると全製造業では0.4ポイント減少している。

米国製造業の設備稼働率月次推移



(FRB Statistical Release G.17(419)/1月15日付)

◆米国：AMT、B11規格制定活動を見直しへ

米国製造技術工業協会(AMT)は、ANSI(米国規格協会)規格B11シリーズの規格作成機関としての役割を見直す決定を行っている。AMTは、加盟各社にとって差し迫った課題、及ぼす影響が大きい問題に重点的に取り組むため活動の焦点をシフトする。

AMTは、B11活動には引き続き参加し、B11の規格認定機関としての地位は維持する。しかし、その事務局としての機能は断念し、AMTの技術部のなかに設置した規格部を解散する。

業界のニーズが進展するのにもない、AMTもその重点を調整している。その重点とは、製造業界のために首尾一貫した政府政策を作り上げること、イノベーションの促進、業界内にコラボレーションをもたらすこと、などである。

AMTは、業界がグローバル化するのにもなつて規格は国際的な機関によって作成されるのが最良と考えている。

今後数ヵ月以内に、AMTはB11活動に関する規格作成機関の役割を担うAMTとは別の組織の創設に協力する。

(AMTプレスリリース 2010年1月29日付)

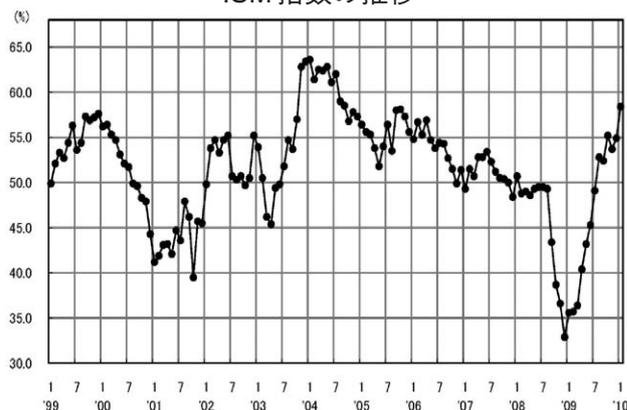
◆米国：製造業部門、6ヵ月連続で成長(1月)

米サプライ・マネジメント協会(ISM)の購買管理指数(PMI:製造業350社以上のアンケート調査に基づく月次景況指数)によると、2010年1月のISM指数(PMI)は58.4%と景況感の分かれ目である50%を上回り、製造業部門の活動も6ヵ月連続で成長した。一方、経済全体の動向はPMIが上昇・下降の分岐点41.2%を9ヵ月連続で上回り、経済成長を遂げた。

1月の調査結果について、ISMは次のようにコメントしている。「製造業部門は1月に6ヵ月連続で成長し、PMI(58.4%)も2004年8月以来の最高となっている。製造業部門が回復基調に乗っていることを証明するものだ」

なお、1月の製造業の景況感について、対象18業種中、次の13業種が「企業活動を拡大した」と回答している。アパレル・皮革製品、繊維製品、機械類、雑貨、輸送用機械、紙製品、非鉄鉱産物、コンピューター・電子製品、食品・飲料・たばこ製品、電気機器・家電製品・部品、木材製品、金属製品、プラスチック・ゴム製品。

ISM指数の推移



ISMが発表した1月の主要個別指数の前月比変動傾向は以下の通り。

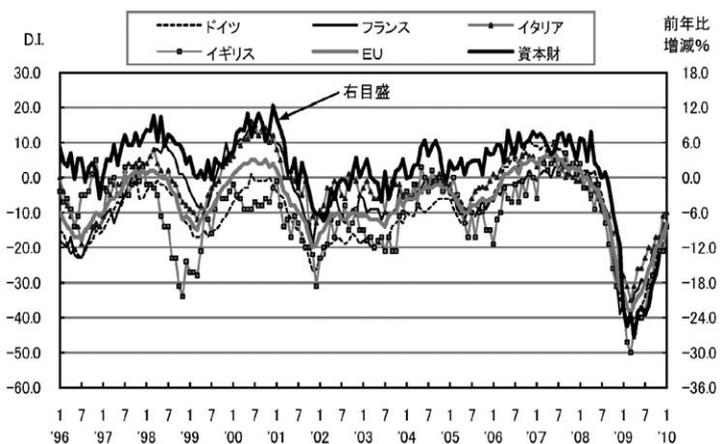
項目	2010年1月指数	2009年12月指数	備考
ISM指数 (PMI)	58.4	54.9	12月比3.5ポイント上昇。製造業は6ヵ月連続成長。1月のPMI (58.4%) は年率換算実質GDP成長率5.5%に相当。
生産	66.2	59.7	12月比6.5ポイント上昇。拡大の基準である50.4%を8ヵ月連続で上回った。15業種が成長を報告した。
新規受注	65.9	64.8	12月比1.1ポイント上昇。7ヵ月連続で増加した。14業種が成長を報告した。
受注残高 (季節調整なし)	56.0	50.0	前月比6ポイント上昇。11業種が増加を報告した。
サプライヤー納期	60.1	56.8	12月比3.3ポイント上昇。8業種が長期化を報告した。
在庫	46.5	43.0	前月比3.5ポイント上昇。2業種 (アパレル・皮革製品、雑貨) が在庫増を報告した。
雇用	53.3	50.2	12月比3.1ポイント上昇。7業種が増加を報告した。
仕入れ価格	70.0	61.5	前月比8.5ポイント上昇。13業種が上昇を報告した。
輸出受注	58.5	54.5	前月比4ポイント上昇。7ヵ月連続の増加。8業種が増加を報告。
原材料輸入	56.5	55.0	前月比1.5ポイント上昇。8業種が増加を報告した。

(ISM Manufacturing Report on Business 2010年2月1日付)

◆欧州：EU主要国製造業景気動向指数(D.I.)と資本財生産月次推移(1月)

欧州委員会の発表した2010年1月のEU主要国製造業景気動向指数 (D.I.) によると、EU全体では

EU主要国製造業景気動向指数(D.I.)と資本財生産月次推移



3ポイント上昇している。国別では、イギリスが7ポイント、ドイツが4ポイント、イタリアが1ポイント夫々上昇しているものの、フランスは1ポイント後退している。

一方、ユーロ圏の資本財生産については、2009年11月は前年同月比で13.0%減となった。なお、2009年12及び2010年1月の数字は未発表である。(欧州委員会 Monthly Survey of Manufacturing Industry 及び Industrial Production 調査)

◆ドイツ：METAV2010は業界の景気回復の目安に、出展社数が再び増加

工作機械業界の受注不振は底を打っている。それは特に、今年初の金属加工部門の包括的な国際見本市2010 (METAV2010) (2010年2月23～27日の期間にデュッセルドルフで開催) に出展する企業において顕著となっている。METAV2010には、26ヵ国680社のトップ企業が出品する。

「METAVは、工作機械ユーザーが不況から立ち直り始めていることを示す見本市となろう」とMETAVのDr. Detlev Elsinghorst専務理事は言う。

同専務理事は、このところ出展社数と予約された展示ブースの面積が目立って増加していることを指摘している。「企業は、初期景気指標のほとんどが上向いていることに反応して、現在はきわめて低水準にある循環的な景気回復を捉えることに必死となっている」

METAV2010は、工作機械業界が危機から脱出する戦略を示すものともなる。生産財業界は昨年の絶不調に続いて今年もチャレンジの多い困難な状況に直面している。

顧客は、例えば、エコな新製品を求めている。産業機器サプライヤーも顧客業界の市場をさらに深く開拓しようと努力している。工作機械業界全体として、その構造とコンセプトを低水準にある需要に合わせなければならない。コスト削減とプロセス最適化が課題の上位に来るゆえである。

これらすべてのためにインテリジェント生産技術が必要とされている。METAV2010では、生産の専門家はその分野における最新の動向について必要とされるすべての情報に接することができる。

「我々は岐路に立っている」とDr. Detlev Elsinghorst 専務理事は言う。ドイツの工作機械産業は強力であり、国際的な頂点で競合している。停滞感が打ち破られ、設備投資が再開されれば、ドイツは先頭に立とう。「その証拠がMETAV2010で見られるはずである」と同専務理事は述べている。

(METAV プレスリリース 2010年1月28日付)

◆独機械業界、10年はゼロ成長の見通し

独機械工業連盟 (VDMA) のヴィッテンシュタイン会長は10日、「(独業界の)生産量は今年下半期から増加に転じるものの、通期では前年水準の1,510億ユーロにとどまる」との予測を発表した。今後の雇用については言及を避けたが、生産高が予測したレベルにとどまれば、昨年に引き続き雇用調整が避けられないとみられる。

VDMAによると、2009年12月の加盟企業の受注高は前年同月比8%増となり、15カ月ぶりにプラスに転じた。ただ、比較対象の08年12月は受注が同年中で最も低い月だった。また、09年12月は国外が15%増となったのに対し、国内は4%減とマイナス成長が続いている。

大型受注による統計上のブレが少ない3カ月単位の比較を見ると、09年10～12月期は前年同期比で13%減少。国内が16%、国外も11%落ち込んだ。

09年通期の受注高は38%の大幅減となった。売上高は23%減の1,600億ユーロ、生産高も25%減の1,510億ユーロに縮小している。

独機械業界では経済危機発生からこれまでに、従業員50人以上の企業で雇用規模が計3万4,000人縮小した。実際には10万人の削減が必要とされており、雇用不安は今後も続きそうだ。

(Press Release 2010年2月10日付)

◆独機械業界が模造品防止の取り組み強化

独機械工業連盟 (VDMA) はこのほど、機械の模造品防止に向けた取り組みを支援する作業部会「AG Protect」を設置、活動を開始した。電子タグ (RFID) や製品認証ラベルなどの偽造防止技術を手がける企業と機械メーカーの意見・情報交換の場を設けることで、機械メーカーのブランド保護意識を向上させる狙いだ。経済協力開発機構 (OECD) が昨年11月に発表した模造・偽造品統計によると、2007年の模造品の取引は世界貿易の1.95%を占め、取引額は2,500億ドルに上った。

知的財産権を侵害する模造品・海賊商品による被害は正規品の販売を阻害するといった経済的損害にとどまらない。その多くは品質が劣るため、◇正規品のブランドイメージを傷つけ、企業への信頼感を低下させる◇消費者の健康や安全が脅かされる——などのリスクもある。

模造品で被害を受けるドイツ企業は増えている。VDMAが実施した会員アンケートによると、自社製品を不当にコピーされたことが「ある」と回答した企業の割合は2004年の4割から08年には約7割に増えた。

VDMAが製品認証などの偽造防止技術に関心を持つのは、高い技術力によって製品を模造できないようにする戦略には限界があるためだ。VDMAの関係者は『フランクフルター・アルゲマイネ』紙に対し、「技術の進歩は加速し続けている。最先端の製品を出しても、価格・性能の上ですぐに競合に追いつかれる」と指摘したうえで、ソフトウェアのライセンス認証のように真正品かコピー品かを見定める技術の導入が機械業界でも不可欠になっているとの見解を示した。

模造品の流通を防ぐには、事業を展開する地域で独自の販売網を構築し、正規の販売店以外には製品・修理部品を卸さないなどの対策も有効だ。ただ、これにはコストがかかるため、資金力のある大手でないと実施できない。VDMAの担当者は地元業者との販売提携に軸足を置く中小メーカー

に対し、「提携業者が正規品と一緒に模造品を混ぜて売っていないか定期的にチェックするよう」薦めている。

(Frankfurter Allgemeine Zeitung 2010年1月19日付)

◆独企業景況感、10カ月連続で改善

ドイツのIfo経済研究所が1月26日発表した同月の独企業景況感指数(2000年=100)は95.8と、前月の94.6から1.2ポイント上昇し、リーマンショックが起こる2カ月前の08年7月の水準まで回復した。同指数の改善は10カ月連続。事業の現状判断を示す指数と今後6カ月の見通しを示す期待指数がともに上昇しており、Ifoのハンスヴェルナー・ジン所長は「経済の回復は年初も継続している」との見方を示した。

現状判断指数は91.2となり、前月の90.4から0.8ポイント上昇した。改善は09年7月から7カ月連続。期待指数も13カ月連続で上がり、月の98.9から100.6に上昇した。

部門別では製造業が特に好調で、国外事業の見通しは大幅に良くなっている。不振が目立つ機械業界でも稼働率は昨秋に比べ高まっているという。

建設業界では期待指数が大幅に改善した。厳しい寒波と積雪の影響で現状判断はやや悪化している。卸売業界では景況感の改善が続き、小売業界は横ばいを保った。

(Bloomberg 2010年1月26日付)

◆伊工作機械業界、受注減続く

イタリア工作機械工業協会(UCIMU)がこのほど発表した2009年10～12月期の業界受注高は前年同期比で8.8%下回った。減少率は縮小したものの、7四半期連続で減少した。国外向けは同22.8%の減少となった。国内向けは、政府がUCIMUの要請を受けて新規設備購入額の50%を税控除の対象とする措置を導入したことで、12.1%の減少にとどまった。

2005年の受注高を100とする業界指標では、10～

12月期の業界受注高は74.9ポイント。国内受注、国外受注はそれぞれ、82.3ポイント、66.9ポイントだった。

2009年通期の受注高は前年比で46.9%減少した。業界指標は60.6ポイントとなり、1993年並みの低水準となった。

(MaschinenMarkt 2010年2月3日付)

3. 工作機械関連企業動向

◆スイス工作機械メーカー StarragHeckert、09年受注高43.5%減

スイスの工作機械メーカー StarragHeckertがこのほど発表した2009年12月期の通期決算は、売上高が2億5,300万スイスフランとなり、前年比で15.3%減少した。世界の工作機械市場が7割近い落ち込みを見せるなか、増収を確保した。ただ、受注高は前年比で43.5%減となる1億8,800万スイスフランに縮小。受注残高は1億2,400万スイスフランとなり、過去最高を記録した08年と比べ、約3割の低水準となった。

(MaschinenMarkt 2010年2月1日付)

◆独工作機械のギルデマイスター、09年は94%減益に

工作機械大手の独Gildemeister(ビーレフェルト)が11日発表した2009年12月期暫定決算の最終利益は470万ユーロで、前年の8,110万ユーロから94%減少した。金融・経済危機の直撃を受けた格好。売上高は38%減の11億8,120万ユーロで、本業のもうけを示す営業利益(EBITベース)も80%減の3,240万ユーロに落ち込んだ。

部門別の売上高は主力の工作機械が36%減の7億5,770万ユーロで、サービスは41%減の4億2,300万ユーロだった。サービスの下落幅が大きかったのは同部門傘下の太陽電池事業で売上高が前年の1億9,950万ユーロから8,850万ユーロに急減したため。売り上げに占める輸出の割合は前年の56%か

ら58%に拡大した。

新規受注高は11億4,590万ユーロで、前年から39%減少した。工作機械部門が51%減の5億6,800万ユーロと大幅に下落。サービス部門は21%減の5億7,770万ユーロだった。太陽電池事業の受注高は85%増の2億9,980万と大きく拡大している。

今年に入ってから受注がやや上向いているものの、経営陣は2010年も厳しい年になると予想。第1四半期は売上高で減少、税引き前損益では赤字を見込んでいる。業績が本格回復する時期については2011年になるとの見方を示した。

(Press Release 2010年2月11日付)

◆スイス：Mikron社の2009年決算は大幅減収

特注工作機械、組立自動化システムの大手プロバイダー、Mikron Technology Groupの2009年決算は新規受注が前年比44.5%減の1億2,970万スイスフラン、純売上高は同43.2%減の1億5,010万フランの大幅減収となった。国際経済危機による顧客業種の新規投資手控えに直撃された。営業損失は2009年下期に若干縮小したが、通年ではかなりの赤字を計上する見通しだ。なお、同社は景気後退が既に底を打ち、2010年には景気が上向き、下期業績の改善に寄与すると予想している。

欧州の自動車サプライヤー各社が主要な顧客である同社の「機械事業部」は新規受注が前年比51.6%減の5,940万フラン、売上高が52.1%減の6,690万フランと大きく減少した。一方、医療機器・薬品業種が主要顧客の「オートメーション事業部」は新規受注が36.6%減の7,030万フラン、売上高が33.2%減の8,320万フランと機械事業部に比べて業績の後退が比較的軽微だった。

(Mikron社プレスリリース 2010年1月28日付)

◆米国：Hurco社の2009年度決算は減収減益

マシニングセンタや工作機械向けCNC制御装置の大手メーカー、Hurco社の2009年度（2009年10月31日期末）は、販売・サービス売上高が前年比

59%、1億3,297万ドル減の9,101万ドルだった。

減少額のうち794万ドルは欧州通貨安による為替差損で、2009年度売上高の地域別内訳は北米2,565万ドル（-47%）、欧州6,013万ドル（-63%）、アジア太平洋523万ドル（-56%）だった。なお、2009年度第4四半期の販売・サービス売上高は前年同期比51%減の2,318万ドルとなっている。

2009年度新規受注は欧州からの受注減が響いて前年度比62%減の8,060万ドル、第4四半期受注は同50%減の2,003万ドルだった。

Hurco社の2009年度粗利益率は28%で前年度の37%を下回った。高収益機種VMXの欧州販売不振が響いた。なお、2008年度に2,252万ドルの純利益を計上した同社は、2009年度には232万ドルの純損失に陥っている。「2009年度は売上高減の財務への影響を最小限にとどめ、無借金経営を貫き、景気回復に備えて前年度並みの研究開発投資も実施している」とMichael Doar社長兼CEOは語っている。(Hurco社プレスリリース 2009年12月15日付)

◆英国：The 600 Group、当年度中間決算を発表

The 600 Groupは2009年9月27日から2010年1月25日に至る「中間期間」の決算を発表した。

北米を中心に工作機械やレーザ機器需要に回復の兆しが見え、2010年1月2日に至る14週間の新規受注は前年同期比20%増、売上高も25%増となった。工作機械、レーザ機器の受注残高は安定していて、当年度を通じてこの受注水準を維持したいと600 Groupは期待している。

粗利益率は33%に改善し、諸経費は会社再建計画に沿って抑制されているので、この中間期間には金利・税金・償却前利益（EBITDA）ベースで利益が計上できる見通しである。なお、600 Group欧州販売・財務・製造事業の統合を主軸にしたコスト削減プログラムは2010年3月27日に完了する予定である。

(The 600 Groupプレスリリース 2010年1月26日付)

4. その他

◆ユーザー関連トピックス

独自動車・部品大手、電気自動車の普及活動で連携

ドイツの大手自動車・部品メーカーがこのほど、電気自動車の普及促進に向けた連合「eNOVA Strategiekreis Elektromobilität」を発足させた。基礎的な研究開発分野で協力するほか、インフラ整備や助成策などを政府に提言していく。すでに、連邦教育研究省に今後の支援策についての提言文書を提出している。

同連合は、自動車業界がエレクトロニクス分野の競争力強化を目的に2007年に立ち上げた連合「Innovationsallianz Automobilelektronik」が新たに立ち上げたもので、自動車大手のアウディ、BMW、ダイムラー、ボルシェ、自動車部品業界からはロバート・ボッシュ、コンチネンタル、ヘラー、ZFフリードリヒスハーフェン、インフィニオン、エルモスが参加している。今後さらに参加企業を募る予定だ。

連邦政府は2009年8月、エレクトロモビリティの分野でドイツが主導的な地位を確立することを目標とした国家計画を発表した。新連合は同計画の実現に向けて連邦政府や各省庁との連携を活動の柱とする方針。

(Automobilwoche 2010年1月19日付)

独機械大手のVoith、人員削減が利益圧迫

機械大手の独Voith（ハイデンハイム）が1月20日発表した2009年9月通期決算の最終利益は7,700万ユーロで、前期の1億4,400万ユーロから47%減少した。景気悪化に伴う人員削減や金利収入の減少、為替差損が響いた。本業は堅調で売上高は3%増の50億4,000万と初めて50億ユーロを突破。営業利益は16%増の3億5,600万ユーロに拡大した。

同社は世界的な不況を受け、景気の影響を早い時点で受けやすい製紙機械と産業サービスの2部門で従業員の整理を実施、3,600人以上を削減した。

これに伴うコストは9,700万ユーロに上る。

世界的な不況にもかかわらず安定した売り上げと営業利益を確保したのは、事業分野が幅広いためだ。製紙機械の不振や自動車産業からの需要急減を水力発電設備やその他の製品で吸収したという。

受注高は49億5,000万ユーロで、前期の60億9,000万ユーロから19%減少した。ただ09年10～12月期の受注高は前年同期を大きく上回ったといい、経営陣は2010年9月通期の売上高と利益が09年9月期の水準に達すると予想している。経済危機については長期化するとの見方を示した。

『ハンデルスブラット』紙によると、同社は適切な対象があれば他社の買収に踏み切る意向で、すでに社債3億ユーロ、担保付社債1億5,000万ユーロを発行した。金融システムが依然として不安定なため、銀行融資を当てにするのは危険だとみている。

(Press Release 2010年1月21日付)

EIB、フォード子会社に4億ユーロ融資

欧州投資銀行（EIB）は21日、米自動車大手フォードのルーマニア子会社に4億ユーロを融資すると発表した。低排出エンジンや環境対応車の開発・生産を支援するのが狙いで、融資額の80%をルーマニア政府が保証する。

フォードは2008年にルーマニア政府から南西部クライオバの自動車組み立て工場の株式72.4%を買収。昨年9月にライトバン「トランジット・コネク」の生産を開始した。今年は人気のサブコンパクトカー「フィエスタ」をベースにした新型車「B-Max」の生産もスタートする予定だ。クライオバ工場はフル稼働時で従業員7,000人、年産能力はエンジン30万基、完成車30万台となる。

なお、EIBはフォードのドイツ子会社に対し、クライオバ工場生産する自動車とエンジンの研究開発に2億ユーロを融資することを決めている。

景気後退が深刻化した2008年12月以降、欧州で

事業展開する自動車メーカーに対するEIBの融資は、総額82億ユーロに達した。

(Ziarul Financiar 2010年1月21日付)

射出成形機大手エンゲルと三菱エンジニアリングプラスチックが提携

オーストリアの射出成形機メーカー大手エンゲルはこのほど、三菱エンジニアリングプラスチック(MHI-PT)と、エンゲル社製射出成形機の日本販売で提携したと発表した。MHI-PTは製品の修理・メンテナンスサービスのほか、交換部品の供給を手がける。エンゲルはMHI-PTが日本国内に持つ自動車メーカー向け販路を有効活用することで、販売拡大を目指す。

(MaschinenMarkt 2010年1月25日付)

世界鋳造見本市「ユーロモールド」がアフリカで開催

独フランクフルトで毎年開催される世界鋳造・工具・デザイン見本市「ユーロモールド」がアフリカに進出する。南アフリカ共和国の首都ヨハネスブルクで、今年の8月16日～18日の3日間にわたり開催されるもので、名称は「アフリモールド(Afrimold)」。

主催者のDematによると、同国では近年、研究開発分野の成長に伴い工作機械・成形技術への需要が拡大していることから、本格的な専門見本市のコンセプトを輸出する必要があると判断した。南アフリカだけでなく周辺諸国のローカル企業による参加・来場を見込んでいる。これまでコスト的に国際見本市への参加・来場が難しかった現地のローカル企業にとっては、欧州メーカーだけでなく米国とアジアメーカーを含む世界レベルで商機を拡大するチャンスとなりそうだ。

(MaschinenMarkt 2010年1月26日付)

独プレス機械大手のSchuler、風力発電機事業に参入

プレス機械世界最大手の独Schulerは1月28日の

決算発表で風力発電設備事業への参入方針を明らかにした。自動車産業に深く依存した事業のあり方を改めることが狙いで、新たな事業の柱に育て上げる意向だ。これまで培ってきたノウハウをそのまま活用できるため、同分野への参入を決めた。

同社は風力発電機市場への参入を2006年からひそかに準備してきた。今後は今年秋にパイロット施設を本社所在地ゲッピンゲンの近郊に設置し、1年間の実用テストを実施。2013年から量産を開始し、少なくとも年100基を販売する計画だ。ユルゲン・トン社長は「3年で売上高3億～3億5,000万ユーロを実現できる」と述べ、事業の成功に自信を示した。

同社が開発しているのはギアレスの直接駆動型タービン。ギアを用いないため保守・修理の手間が大幅に減るのがメリットで、風力発電パーク運営事業者のニーズにマッチしている。定格出力は2.7メガワットで、風力の強くない地域での利用に適しているという。

2009年9月通期決算の最終損益は6,490万ユーロの赤字で、前期の黒字(860万ユーロ)から悪化した。不況の直撃を受けた自動車を主要顧客産業としていることが影響。売上高と受注高もそれぞれ14.8%減の8億2,300万ユーロ、41.3%減の5億9,050万ユーロへと大きく縮小した。受注の後退はすでに止まっており、経営陣は2010年9月通期決算では増収と黒字転換を見込んでいる。

(Press Release 2010年1月28日付)

独シューラー、08/09年度決算で最終赤字に転落

独プレス機械メーカーのシューラーは1月28日、2008/09年度通期決算(9月末締め)の最終損失が6,490万ユーロとなり、前年の860万ユーロの黒字から赤字に転落したと発表した。受注高は41.3%減の5億9,050万ユーロだった。同社は自動車事業に依存する経営体制を見直し、第2の事業として風力発電設備の製造に参入する。

売上高は9億6,610万ユーロから8億2,310万ユー

ロに落ち込んだ。ドイツが15.5%減の3億2,340万ユーロとなるなど、全ての地域で前年実績を下回った（表参照）。

受注高は前年度比41.3%減の5億9,050万ユーロに落ち込んだ。地域別では、アメリカが7,070万ユーロとなり、前年度の2億2,040万ユーロから急減。アジアは1億5,840億ユーロ（前年度：1億8,840万ユーロ）。ドイツは2億2,120万ユーロ（同：3億8,940万ユーロ）。欧州（ドイツを除く）は1億3,740万ユーロ（同：2億520万ユーロ）。

同社は今後について、受注は回復基調にあるものの、2009/10年度も厳しい年となり、税引き前損益は赤字になると予想している。2010/11年度については増収および黒字を確保できるとの見通しを示した。

（Press Release 2010年1月28日付）

産業用ロボット・機械大手の独Kuka、09年は赤字に

産業用ロボット・機械大手の独Kuka（アウグスブルク）が2日発表した2009年12月期暫定決算の最終損益は5,290万ユーロの赤字で、前期の黒字（5,200万ユーロ）から悪化した。不況の影響で売上・受注が大幅に落ち込んだほか、人員削減を含む事業再編で3,860万ユーロを計上したことが響いた。

売上高は9億210万ユーロで、前期の12億6,610万ユーロから28.7%減少した。部門別の売上高はロボットが30.3%減の3億3,050万ユーロ、システムズ（溶接設備、自動車・航空宇宙・ソーラー産業向け生産設備など）が27.7%減の6億550万ユーロ。全体の新規受注高は29.4%減の9億330万ユーロ、12月31日時点の受注残高は0.2%増の5億4,340万ユーロだった。

同社はコスト削減が進展し、第4四半期は業績も改善したとの見解を示した。ただ、2010年に黒字転換するとの目標を達成するのは難しいとしている。

（Press Release 2010年2月2日付）

シーメンス、ルーマニアの生産体制再編へ

独総合電機大手シーメンスは、生産効率の向上とコストダウンを目指し、ルーマニアの生産体制を再編する。3日付けの現地紙『ジアルル・フィナンチアル』が、シーメンス・ルーマニアのセコサン社長の話として伝えた。

シーメンスはシビウに3カ所、Buzias、ブラショフ、クルージュ、ブラジ、ティミショアラに計8カ所の生産拠点をもち、従業員1,700人を雇用する。セコサン社長によると、このうちシビウの3工場とBuziasの工場を7月に統合する計画。統合に伴う人員削減の予定はないという。

一方、ITソリューション・サービスを手がけるティミショアラでは、年内に従業員を現在の200人から270人に増員する。セコサン社長は「IT関連業務のアウトソーシングは年々拡大している。コストの観点と業務の複雑性から考えて当然だ」と説明した。

シーメンス・ルーマニアの2009年の売上高は前年比で17%減少した。

（Ziarul Financiar 2010年2月3日付）

ルーマニアに自動車部品12社が工場建設か

ルーマニア自動車製造者連盟（ACAROM）のStroe会長はこのほど、現地経済紙『ジアルル・フィナンチアル（ZF）』に対し、欧州水準の自動車部品メーカー12社が国内で工場建設を検討していると明らかにした。ただ、各社とも経済情勢が落ち着くまで計画を保留しているという。同会長は、12社の具体名について明らかにしていない。

Stroe会長が『ZF』紙に語ったところによると、工場建設の目的は12社とも生産移管で、ルーマニアに初めて進出する企業も含まれるという。地域的には、東部は敬遠されがちだとしている。同会長は「ルーマニアの長所は賃金の安さと従業員の適応力の高さで、まだ優位性は高い」としつつ、「ドイツ、フランス、イタリアなどで昨年需要を喚起した新車買い替え奨励策が終了し、今年の自動車

業界は厳しい」と述べ、12社による投資計画の年内実現は難しいとの見通しを示した。

ルーマニアには過去10年間で自動車関連メーカーが多数進出。とくに過去3年間では伊ピレリが2012年までに計5億ユーロ、07年にクライオバの旧大字工場を取得した米フォードが10億ユーロの投資計画を発表するなど、大型投資が相次いでいる。(Ziarul Financiar 2010年2月3日付)

スウェーデンのハスクバーナ、ポーランドに工場

スウェーデンの造園・芝生管理機器大手ハスクバーナ(Husqvarna)が、ポーランド南東部のミエレッツに工場を建設する。ポーランド週刊紙『ワルシャワ・ボイス』などがこのほど伝えたところによると、同社は新工場に2億5,000万スウェーデン・クローナ(SEK)を投資。年内に稼働させるという。

ハスクバーナはミエレッツ工場です走式芝刈り機、ガーデニング用品などを生産する計画で、稼働までに従業員約100人を新規雇用する。同社はポーランドを欧州での主要市場と位置づけ、国内に小売店、サービスセンターなど約400カ所のディーラー網を構築するとしている。

なお現地紙『Gazeta Wyborcza』によると、ハスクバーナは当初、工科大学など多数の大学が集まる南東部の中心都市ルブリンでの工場建設を検討した。だが、市が用意した土地は狭く、高価だっ

たため、同社はミエレッツに進出地を変更したという。

(Warsaw Voice 2010年2月4日付)

独ポッシュがハンガリーに生産移管

ハンガリーの複数のメディアは15日、自動車部品製造で世界最大手の独ポッシュが英カーディフ工場を閉鎖し、同工場での生産事業をハンガリーに移管する方針を固めたと伝えた。経済危機の影響による採算悪化に対応した措置で、2011年に実施する予定。最終決定は2月末に下すという。

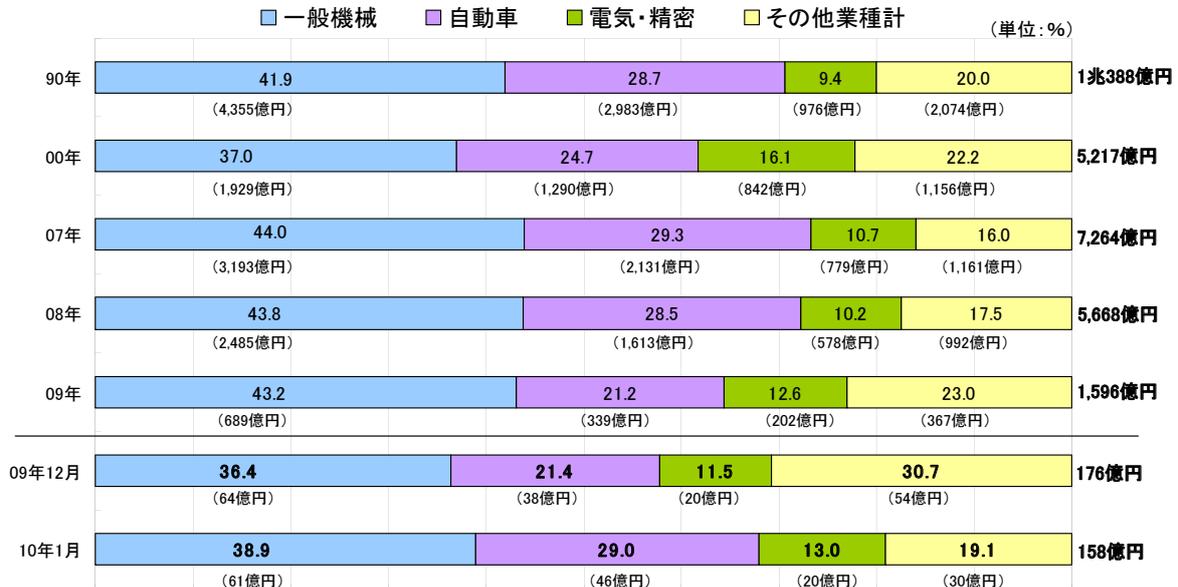
同社のカーディフ工場は、従業員900人。自動車に搭載される発電機(オルタネーター)を主に生産している。当初計画では従業員300人を削減し工場は維持する方向だったが、経済危機で同工場の製品販売が昨年で前年比45%も落ち込んだため、11年夏をめどに閉鎖することに決めた。

移管先の工場は明らかにされていないが、自動車用スターター、モーターを生産する北東部のミシュコルツ工場が有力とみられる。同社はこのほか、エゲル、ハトヴァンにも生産拠点をもち、ハンガリー国内全体で7,000人以上の従業員を抱える。同社によると、ハンガリーの労働コストはカーディフ工場より35%低いという。

(Portfolio 2010年1月15日付)

5. 日工会外需状況(1月)

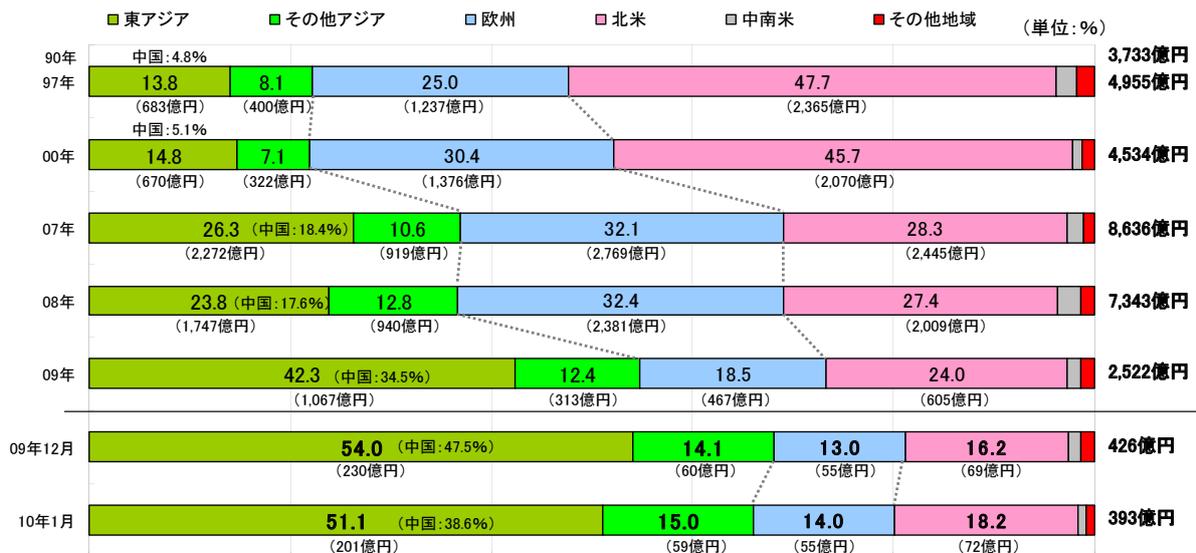
受注内需 主要業種構成比の推移



出所: 日本工作機械工業会

1月は昨年12月に比べ、自動車が増加を示した。
 暦年ベースとの比較では一般機械の割合が低いものの、自動車の割合は08年に比較的近い割合を示している。

受注外需 地域別構成比の推移



出所: 日本工作機械工業会

1月は、アジアの減少(△2.0Pt)により、欧州、北米がそれぞれ増加を示したものの、アジア全体では依然として66.1%を占めており、前月からの傾向に大きな変化は見られていない。